

2017年11月6日(月)

京都新聞

宇治のNPO「アジール舎」

障害児見守り10年振り返る



NPO法人アジール舎の10周年記念セミナーで
思い出などを語る亀口会長
(宇治市榎島町「ころぼっくるの家」)

障害のある子どもの療育支援に取り組む宇治市のNPO法人アジール舎(亀口公一会長)が設立10周年を迎え、同市榎島町の療育施設「ころぼっくるの家」で5日、記念セミナーが開かれた。関係者らがこれまでの歩みに思いをはせながら、節目を祝った。

記念セミナー 居場所づくりへ意欲

アジール舎は2007年8月にNPOとしてスタート。現在、児童デイサービスや発達相談支援室などの事業や、親子塾やフリースペースなどの自主活動をしている。

セミナーには、NPOの前身から関わったスタッフや後援会、利用者や家族ら約50人が出席。「子どもたちや父母が寄れる場所があるのは大切」「家族の心の糧となった」と思い出話などを語り合った。亀口会長は「市民活動として10年を迎えられ、いろんな思いがあふれている」と話し、今後も子どもの居場所づくりへ意欲を示した。

この後、利用者の視点でアジール舎の日常を撮影した10周年記念ビデオ「まなざし〜子どもたちが映す世界」が上映された。(大竹逸朗)